湊地区の取り組み

「桜のトンネルライトアップ」ガバメント・クラウドファンディング
～湊地区の課題解決に向けて～

どの地区もそれぞれに地区の課題を抱えていると思いますが、湊地区も独自の課題を多く抱えています。中心市街地での課題解決実践例がほとんどない中、湊地区が考えたのは、「地区を横断的にまとめ地区の独自性・独立性を打ち出しながら課題解決に取り組んでいく」組織として湊ビジョン推進協議会を立ち上げ、公民館と強く連携していく中で、ポイントを絞った事業を展開することにより、「住民の顔が見える、住民主体のまちづくり」を推進していこうというものです。

事業を通して地区民に意識を高めてもらい、地域活動に関わる人材を増やしていきたいと思っています。

（表面）

その中での第一段階の取り組みが、昨年度実施した「桜のトンネルライトアップ」ガバメント・クラウドファンディングでした。市の助成とは別に地区独自で活動資金を確保し、地区のために使っていくことがこれから必要になってくると思われます。タイミングよく福井市が「地域の夢を叶える未来づくり創造ファンド事業」を募集していましたので、地元主催の「越前湊さくら祭」に合わせて、桜をライトアップしている劣化した行燈の入れ替えとシンボルツリーの変色ライトアップのためのクラウドファンディングを、実施しました。この事業を通して①地区の一体化②人材の発掘や育成③地区についての発信と交流の継続を目指し、また2年連続で中断していた「越前湊さくら祭」の再開に花を添えるという意味合いもありました。みなさまのご理解とご協力のお蔭でこの事業を成功裏に終えることができました。併せて湊地区指定の「ふるさと納税」の呼びかけもできました。

次のステップは、地区最大の資源である「三秀園跡地」の利活用です。福井市西部地域、湊地区の活性化の拠点として、福井市が考えている「足羽山・足羽川周辺　空間再形成構想」の中にある足羽山・足羽川周辺の5つのポイントの周遊性を加味し、桜並木と一体になった史跡的な付加価値をつけての素晴らしい空間になるよう、福井市と協働で考えていけたらと思っています。

湊公民館　運審委員長（湊ビジョン推進協議会　会長）　藤田　和也

※詳細をお知りになりたい場合はお問合わせください

「クラウドファンディングによる湊地区の活性化」

令和4年度の調査研究委員会視察訪問が湊公民館にて開催されました。

コロナ禍の中、感染者が増加中にもかかわらず、快く調査研究委員11名の参加を受け入れて下さり感謝申し上げます。今回訪問研究先として選んだ理由は、湊地区のさくら並木通り（さくらトンネル）のライトアップに関し、クラウドファンディングの取り組みを通して、住民が約8,600人・99もの自治会を抱える湊公民館が、地域の若者と共に活発に行動されている事にあります。世帯数が約4,270世帯、また外国人居住者も約450人と市内でもトップクラスの湊地区が、さくら並木通りのライトアップ事業を後世に伝えていくため寄付型のクラウドファンディングを実施され、110名を超える多くの方から寄付を頂きあんどんを増やすなど、地域が一体となり祭りが成功していることが、藤田運審委員長の説明で良く理解できました。

湊公民館は千秋公民館長をはじめ、地域が一体となって地区の将来像とまちづくりの目標として「であい」「ふれあい」「学びあい」を掲げ、3つの施策に取り組んでいます。

1. 住民の顔が見える、住民主体のまちづくり。
2. 水と緑のうるおいが感じられるまちづくり。
3. 湊の歴史文化を学び、活用するまちづくり。

湊地区の歴史や文化の発見や調査を多くされ、三秀園跡地の利用・活用についても、市の行政と地区住民との協働による再整備を目指しているとのことです。

研修会後は千秋公民館長の案内で、湊公民館の館内を見学させていただき多くの部屋数に驚きました。今後も湊地区が一丸となり課題解決にチャレンジされることを期待しています。

調査研究委員会　委員長　小林　彰

外の暑さに負けない
熱気ある会場の様子

館内見学
「みなと独楽吟」
入賞作品